

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	福島市			代表者名	木幡 浩
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	政策調整部デジタル改革室デジタル推進課	連絡先電話番号	024-572-3943
担当者役職	デジタル推進係長	担当者氏名	小沢 梓	連絡先E-mail	
住所	960-8601 福島県福島市五老内町				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	トップセミナー	事業名	地域のデジタル化推進事業
概要	事業所等向けのDX推進に向けたセミナーにおいて、本市における「地域のデジタル化」の推進に向け「地域でDXを実現するために必要なこと」についてご講演をいただきたい。 また、講演後には、DX推進の取り組み事例に関するパネルディスカッションにおいて、モデレーターをしていただきたい。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和8年2月24日	講演(実地)	15時30分	17時00分	
			活動時間（分）	90	
2-2. 派遣場所	会場名	福島テルサ	最寄駅	福島駅	
	所在地	福島市上町4番25号	最寄駅からの交通手段	徒歩	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	福島の地域課題を県内他市との比較などを盛り込みわかりやすくご説明いただいたうえで、「なぜ今福島でDXが必要なのか」について、ポイントを絞りご講演いただいた。 パネルディスカッションでは、モデレーターとしてパネラーの取り組みを特徴を踏まえ引き出すほか、参加者が身近に感じるよう工夫いただいたうえで成功事例を共有していただくことにより、参加者のDXへの理解、意識改革に繋がったものと捉えている。
アドバイザーへの要望事項	特にありません。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	62人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
人数	4	0	57	1

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本市が地域のデジタル化を推進するにあたり、地域企業の中には、DX推進の必要性を理解していない企業や何から始めていいかわからない企業が多い。 地域企業におけるDXの必要性、事業所の改革マインドの醸成が必要である。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	地域企業が人手不足をはじめとした様々な経営課題がある中で、DXの必要を認識し、自社において取り組むべきことは何かを認識し、すぐに行動に移せるよう意識醸成を図る。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	これまでのデジタル化やDXは、「生産性の向上」や「業務の効率化」であったが、今後は仕組みを変えていく必要がある。DXで業務の効率化をしつつ、空いた時間や浮いたお金を再投資していくことが必要である。地方は、人手不足や後継ぎ問題などの経営課題がある課題先進国であるからこそ、この課題をビジネスにしていくべきである。地域の課題解決は自治体のみでは解決できない時代であるため、地域の企業がビジネスとして、コミュニティをつくり進めていくことが肝である。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	地域課題の解決はこれまでは自治体が先導して行ってきたが、これからは「ローカルゼブラ」の考え方で、ビジネスの力で産業構造自体を大きく変える必要があり、そのためにはDXが必要であることについて地域企業へ発信していただいた。 また、地域で先進的にそのような活動している方々の取り組みを具体的に示し、ロールモデルとして紹介していただくことで、参加企業が何から始めるべきか、意識を促すことができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
	アドバイザーの支援により、DXを業務効率化に留めず、仕組み変革と再投資を通じて地域課題をビジネスとして解決する考え方を整理した。あわせて、ローカルゼブラの概念と先進的な地域事例を地域企業へ発信し、各企業が主体的に取り組むための意識醸成を図った。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	セミナー参加者へのアンケートにおいて、「もっと詳しく話を聞きたかった」「業種に特化した内容も聞きたかった」などの意見をいただいております。参加者の立場に寄り添った内容のセミナー開催も検討するなど、今後も支援していきたい。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 セミナー参加者へのアンケートによると、「AIやDXといったテーマが専門用語中心になりがちなか中、地域企業が抱える現実の課題に寄り添った言葉で語られていて理解促進に繋がった」「イベント全体を通しDXへの理解が深まった」「具体的なアクションプランを立てるきっかけとなった」という意見を多くいただいております。参加者の理解促進に繋がったと捉えています。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	地域の企業同士が繋がりをつくりDXを推進することで、自治体とも連携した地域課題の解決に向かうことができるよう引き続き支援していく。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	地域企業がDX推進の必要性を認識し、行動に移すことで、地域課題の解決に繋がり、地域の魅力向上を実現していく。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

